工作船パネル展 大反響

八管本部

期間を2カ月間延長

3万3000人が来場

八管本部が9月から展開してきた北朝鮮工作船のパネル展が11月23日、福井県敦賀市のまつり会場での展示で終了した。4カ月にわたり24会場で展示、来場者は延べ3万3千人に達した。今後も、PRイベントなどで展示を計画していく。

パネル展は、東京・お台場の「船の科学館」で一般公開されている北朝鮮工作船を見に行くことができない人にも、広く工作船の実態を知ってもらおうと始めた。

当初は2カ月間に、管内の11部署所在地で1回ずつ展示する予定だった。反響が大きく、パネル貸し出しの要望が相次いだため、期間を11月末まで延長した。

海自舞鶴地方本部、敦賀ふぐまつり会場、隠岐水産高などでも展示され、展示日数は68日にも及んだ。

パネル展の模様は、八管ホームページ・トピックス欄で見られる。（八管）

美保関灯台で展示された工作船パネル

韓国・海洋大と交歓し無事寄港

海保校学生が「みうら」で国際航海

練習船「みうら」で韓国・釜山へ国際航海した海保校・船舶運航システム課程の56人（うち女子6人）が11月21日、舞鶴港に帰港した。

釜山港には12日から3日間停泊。入港式では、海洋大学校関係者から心温まる歓迎のあいさつを受け、花束を贈られた。

翌日には、「みうら」船上で同大学校との交歓会。学生たちは片言の韓国語と英語を使い、「海・船」という共通の話題ですぐに打解けた。互いに歓談を楽しみ、学生同士が肩を組み合って写真を撮ったり、別れの際には、日本のお土産を手渡す姿もあり、盛り上がっていた。

また、同大学校の施設見学では、練習船「ハンナラ号」や擬似操船が体験できるシミュレーション室の案内を受けた。

学生による「みうら」の一般公開も行われ、訪れた同大学生たちに船内を案内した。（海保校）

韓国・海洋大学校との交歓会で記念撮影

海保大医務室

受診者の約半数が初診

急性疾患多く早い治癒

海保大の山根修治医務室長は、11月16日に開かれた呉市医学会で、昨年9月から1年間の海保大医務室の実態を報告した。

総診察数は1685回で約半数の885例は初診者。急性疾患が多く、1回の受診で治っていることを示している。

医務室への入室が94例、入院は29例で、手術を受けたのは9人・10回。健康診断が374人、ワクチン接種は44人。紹介状290通を持って呉市23施設・広島市7施設で受診している。

科別患者数では内科が圧倒的に多く、初診者の約半分の428例。そのうち302例（70・6％）は広い意味での風邪引きだった。次いで整形外科（221）、外科（105）の順。

学生だけに限って月別傷病者数をみると、多い月は10月、4月、5月、7月でひと月50例を超えていた。傷病の誘因をサークル活動と課業の二つだけに絞ってみてみると、対外試合の多い10月はサークルが原因のものが多く、1月・4月・7月は耐寒訓練・オリエンテーション・遠泳を含めた水泳訓練など、課業が原因の傷病が多かった。

2人が肺損傷

海保大では、潜水士になるための潜水研修を年2回行っている。その訓練中に2人の研修生が肺損傷を来たした。

1人は、水深15㍍からの緊急浮上訓練中で、もう1人は、水深6㍍の海底探索訓練中に起こった。いずれも、2～3日前に風邪を引いていた。山根室長は11月9日の広島医学会総会で報告した。

報告では、基礎技術の大切さ・風邪時の潜水禁止などを訴えた。（海保大）

現役とOBが自慢ののど披露

謡曲大会

第44回海上保安庁謡曲大会が10月25日、名古屋市の「栄能楽舞台」で開かれた。現役・OB41人が出席。謡8番、仕舞3番、連吟2番、独吟3番が披露された。

現役会員の減少とOB会員の高齢化で、今回は出席者が減り、1人も参加できなかった管区もあった。厳しい海上保安業務の合間に、安らぎ・癒しの一つとして続けられてきた伝統芸能を守るには、現役会員の増加が課題になっている。（五管扇謡会）

仙崎OB会に25人

昔話に花咲かせる

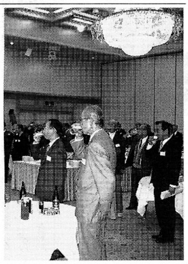
仙崎OB会が11月14日、山口県長門市内のホテルで開かれ、OB19人、現役職員6人が参加した。

大岡潔世話人代表のあいさつの後、石丸新仙崎保安部長が最近の海上保安業務の説明をするとともに、工作船保存の話をすると、参加者は快く寄付に応じた。

山口県内のみならず、遠くは兵庫県からの参加者もおり、懇談では昔をしのんで話に花を咲かせた。

井上恵美子さんは、「金子賢太郎海上保安庁次長から、私が昔描いた絵画を本庁次長室に飾っていると、連絡をいただいた。大変驚きました。昔は趣味で絵画をやっていましたが、最近は主人との海外旅行が楽しみです」と、昔と変わらぬ笑顔で、近況報告した。

最後は、肥塚勉さんの音頭で万歳三唱。来年の再会を約束した。（仙崎）



71人が参加して千葉地区OB会

千葉地区OB会が11月20日、千葉市内のホテルで開かれた。82歳の黒澤重次さんをはじめOB54人と、現役職員17人が出席した。

茅根滋男代表世話人、石井和夫千葉保安部長のあいさつの後、乾杯＝写真。旧知を温め、懇親を深めた。阿部康寛千葉ロランセンター所長の中締めの言葉でお開きとなり、「また来年元気に」を合言葉に散会した。（千葉）

三管海保クラブが総会・懇親会開催

OB会の「三管海保クラブ」の総会・懇親会が11月27日、横浜第2合同庁舎で開かれた。

懇親会には会員114人と現役職員22人が参加。邉見正和会長、森淳一郎三管本部次長があいさつ、桑原康記海上保安協会理事長の乾杯の音頭で宴に。OB同士や現役との久しぶりの懇談で、熱気に包まれた。

最後に長老の藤原安雄さんが締めた。（三管）

海保校普通課31期が10年ぶりの同窓会

海保校普通科31期（昭和38年10月入学）の10年ぶりの同窓会が11月2日、舞鶴市内で開催された。

夫人同伴などで総勢19人が参加。40年前のなつかしい写真や思い出話などに、夜がふけるのも忘れ、お酒や歌に酔った。

翌日は海保校の慰霊碑で「願海」の法名をもつ同期生のお経に合わせて全員で献花、殉職した同期生の法要をした。（海保校・河崎　弘）

海保校から53人が出場、34人が完走

福知山マラソン

京都府福知山市で11月23日、「福知山マラソン」（42・195㌔、制限時間5時間）が行われ、海保校から教職員・学生53人が出場した。舞鶴保安部巡視船「わかさ」をはじめ、八管管内職員や全国各地の海上保安庁職員も多数参加した。

海保校学生のほとんどはフルマラソン初体験。それでも、航海コース23期の大城健裕学生が3時間27分の好タイムを出すなど34人が完走した。

学生は「海保校　未来に残そう　青い海」のロゴが入ったランニングシャツや、海保校の名を書いたTシャツを着用して走り、沿道の応援者から「がんばれ未来の海上保安官」の温かい声援を受けた。

神戸保安部巡視船「うらなみ」からは2人が出場。6月に100㌔マラソンを経験している藤井信彦航海士補は、3時間34分で完走した。（海保校・神戸）

好評だった海保大オープンキャンパス

海保大は11月24日、今年度3回目のオープンキャンパスを開催した。広島県内をはじめ北海道・鹿児島から、未来の海上保安官を目指す高校生らが参加。海上保安資料館では、北朝鮮工作船から被弾した巡視船「あまみ」の船橋を、興味深そうに見入っていた。今回は初めて練習船「こじま」の船内見学も行った。

参加者からは、「ここの大学の学生は、他の大学の学生とは雰囲気が異なり、感じが良いですね。ぜひ、この大学に入りたいと思います」との頼もしい感想が聞かれ、改めてオープンキャンパスの重要性を認識した。（海保大）

「こじま」の船内を見学する高校生ら

「うみがめマリンの大冒険」が絵本に

田辺保安部は11月、海上保安協会田辺支部の協力で、紙芝居「うみがめマリンの大冒険」を絵本にした＝写真㊤。紙芝居の上演はその場限りだが、絵本なら好きな時に読んでもらえる。

A4判横版・12ページ。200部を作成し、保安部管内沿岸部の和歌山県すさみ町から日高町まで10市町の幼稚園・小学校・図書館・児童館計98施設に配付する。

訪問した幼稚園などでは歌や獅子舞などで歓迎されている。

30冊は絵本を有効に活用してもらえる人に限定して、先着順にプレゼントしている。こちらは、まだ残部がある。（田辺）

園児が玉野保安部で勤労感謝の贈り物

岡山県玉野市立宇野保育園児25人が11月25日、玉野保安部を訪れ、巡視艇専用桟橋で渡部盛雄保安部長や乗組員に「勤労感謝」の気持ちをこめて、花束と手作りの首飾りを贈った。

保安部職員が7月に保育園を訪問して「海難事故防止の約束」をし、8月には環境紙芝居を上演した。何かのお礼がしたいと園児が保安部を訪問した。

園児は巡視艇「たまなみ」と「せとかぜ」の船内を見学し、職員の説明を受けながらレーダーや双眼鏡などを楽しんだ。（玉野）

手作りの首飾りをかけ、握手する園児

平成16年版海上保安ダイアリー発刊

成山堂書店は「海上保安ダイアリー（平成16年版）」を発刊した。

従来の資料のほか▽海上保安庁が確認した不審船・工作船一覧▽排他的経済水域及び新たに認められる可能性のある大陸棚図▽国連海洋法条約の大陸棚の定義図などが、追加されている。

ポケット判・228ページ。定価1000円（税込み）、発送費230円。

田中　章介氏（元境保安部おき通信長）11月22日午後10時12分、死去、73歳。連絡先　妻・信子さん。〒852－8064　長崎市北陽町5の14。

よ～そろ

☆「石垣島タウンガイド2004年版」＝写真は表紙＝に、スノーケリング（シュノーケリング）事故防止を呼びかける記事が掲載された。

☆石垣保安部管内では、スノーケル事故が多発している。そこで、「スノーケルの使い方」に加えて「初めてされる方への注意」を、八重山ダイビング協会環境対策員の佐伯信雄さんが書いた。

☆「タウンガイド」は石垣島の観光情報誌で、観光客や市民に無料配布されている。石垣保安部や関係者は、事故防止への期待を込めている。（石垣）